

言葉の認知度

テレビや新聞などでも取り上げられている。ドメスティック・バイオレンス防止法、「ストーカー規制法」「児童虐待防止法」など法律については、約半数の方が名前くらいは聞いたことがあると答え、

「内容まで知っている」と答えた方の割合も高くなっています。

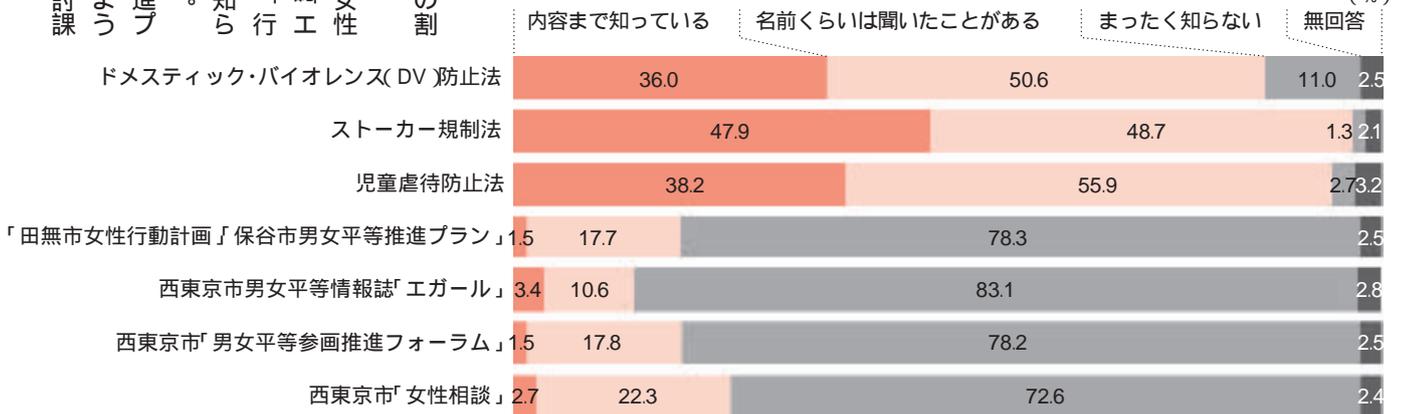
しかし、市が実施している事業「女性相談」「フォーラム」や男女平等情報誌「エガール」、田無市と保谷市の旧両市の行動計画の認知度は低く、「まったく知らない」と7割以上の方が答えています。

今後策定される男女平等参画推進プランに期待をかけると共に、どのように情報提供をしていけばいいのか検討課題も残ります。



あなたは、以下のことがらをご存じですか。それぞれの項目ごとにお答えください。

N=848 (%)



男女平等をめざした取り組み

- 1位 高齢者や障害者を家庭で介護する人の負担の軽減 71.1%
女 78.6% 男 60.9%
- 2位 保育サービスの多様化 52.0%
女 53.7% 男 49.7%
- 3位 雇用の場の平等な待遇の推進 43.2%
女 45.9% 男 39.4%
- 4位 あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み 37.5%
女 39.2% 男 35.2%
- 5位 各種相談窓口の充実 36.4%
女 37.3% 男 35.2%
- 6位 男女平等教育の推進 27.4%
女 28.8% 男 25.4%
- 7位 意思決定の場への女性の参画促進 26.8%
女 28.8% 男 24.0%
- 8位 男女平等推進のための啓発・調査・研究の充実 20.4%
女 19.8% 男 21.2%
- 9位 民間の団体・グループの自主活動支援 16.5%
女 18.2% 男 14.2%

今後 男女平等をめざした取り組みとして、特に力を入れていくべきものは何かとたずねたところ、「高齢者や障害者を家庭で介護する人の負担の軽減」が最も多く、女性は78・6%で、次いで保育サービスの多様化、「雇用の場の平等な待遇の推進」の順になっています。

「その他」に、書かれていた意見を一部紹介します。

- ・男女平等より個性尊重に重点を置いた社会雇用の推進
- ・悪平等は推進すべきではない。本当の平等の意識を啓発すべきである。

- ・行政担当者自身の異なる自覚、意識改革の取り組み
- ・女性自身の意識啓発
- ・男女別で取り上げる事自体がおかしい。
- ・男女平等という言葉を使っている以上何も変わらないと思う。男女対等という言葉にしたらどう？男女と分けるとジェンダーの問題となるので、そこそがすでに平等でない気がする。男女という分け方から考え直した方がいいのでは？

以上の結果をあなたはどのように思われましたか？

今後、計画の素案をまとめた後に、市民の意見を聞く会を開催予定です。市報等でご案内いたしますので、多くの方のご参加をお願いいたします。